

## Working Paper Summary

JICA-RI Working Paper No.136

(2016年12月刊行)

### The Continuum of Humanitarian Crises Management: Multiple Approaches and the Challenge of Convergence

Oscar A. Gómez and Chigumi Kawaguchi

Research Project: [二国間援助機関による人道危機対応に関する比較研究](#)

#### ■付加価値

1991年の国連総会決議において「救援、復興および開発の連続的实施（以下、コンティニウム（continuum）と呼ぶ）」の重要性が指摘されて以来、人道危機への対応として、「救援（relief）だけでは不十分」との認識は国際社会で広く共有されている。しかし現実には、コンティニウムの実現は容易ではない。その原因の一つは、コンティニウム概念の不明瞭さ、共通理解の欠如にあると考えられる。よって本研究では、人道危機において一般的に議論されてきたコンティニウム概念とアプローチを、自然災害に対する防災、紛争に対する平和構築と比較することによって、それぞれの特徴、課題を提示し、コンティニウムとは何かを整理した点に意義がある。

#### ■リサーチ・デザイン

人道危機において一般的に議論されてきたコンティニウム概念とアプローチ、自然災害を起因とした人道危機へのアプローチである防災、紛争を起因とした人道危機へのアプローチである平和構築の3つの比較分析を行った。

#### ■主な結論（政策的含意を含む）

上記3つのコンティニウム概念には、アクターを意識したものと推移するフェーズを意識したものの二つの考え方が並列して存在している。また、人道危機対応のプロセスは、段階的（linear）に移行するという認識もアクターの活動に強く反映されている。さらに、既存のコンティニウム概念では、予防が明確に位置づけられていないことも明らかとなった。本研究では、これらを補完し、あらゆる危機に共通するコンティニウムの理念型として、多層的活動モデル（multi-layered activities model）を提示した。その上で、このモデルの長所や短所についても検討した。またコンティニウムの実現には、アクター間、もしくはアクター内連携だけでは十分でなく、被災地・被災者を中心に据えることが最も重要であることが確認された。